



IP アドレスおよびホスト名の変更

- [IP アドレスとホスト名の変更のタスク リスト \(1 ページ\)](#)
- [OS Admin GUI による IP アドレスまたはホスト名の変更 \(2 ページ\)](#)
- [Unified CM Administration GUI による IP アドレスまたはホスト名の変更 \(3 ページ\)](#)
- [CLI による IP アドレスまたはホスト名の変更 \(4 ページ\)](#)
- [IP アドレスのみの変更 \(6 ページ\)](#)
- [CLI による IP アドレスまたはホスト名の変更 \(8 ページ\)](#)

IP アドレスとホスト名の変更のタスク リスト

次の表に、Cisco Unified Communications Manager と IM and Presence Service ノードの IP アドレスとホスト名を変更するために実行するタスクを示します。

表 1: IP アドレスとホスト名の変更のタスク リスト

項目	タスク
1	変更前タスクおよびシステム ヘルス チェックを行います。
2	<p>コマンドライン インターフェイス (CLI) または Unified オペレーティング システム GUI を使用してノードの IP アドレスまたはホスト名を変更します。</p> <p>IM and Presence Service ノードの場合、次の条件に従ってください。</p> <ul style="list-style-type: none">• サブスクライバ ノードを変更する前にデータベース パブリッシャ ノードの IP アドレスとホスト名を変更します。• すべてのサブスクライバ ノードの IP アドレスとホスト名を同時に変更する、もしくは、一度に 1 つずつ変更することが可能です。 <p>(注) IM and Presence Service ノードの IP アドレスまたはホスト名を変更した後、Cisco Unified Communications Manager の SIP パブリッシュトランクの接続先アドレス値を変更する必要があります。変更後タスク リストを参照してください。</p>

項目	タスク
3	変更後タスクを実行します。

OS Admin GUI による IP アドレスまたはホスト名の変更

Cisco Unified Operating System Administration を使用して、導入のホスト名で定義されているパブリッシャーおよびサブスクリバノードの IP アドレスまたはホスト名を変更することができます。特に明記されていない限り、この手順の各ステップは、Unified Communications Manager および IM and Presence Service クラスター上のパブリッシャーノードとサブスクリバノードの両方に適用されます。

set network hostname コマンドを使用してホスト名を変更すると、自動的に自己署名証明書の再作成がトリガーされます。これにより、クラスター内のすべてのデバイスがリセットされ、更新された ITL ファイルをダウンロードできるようになります。クラスターが CA 署名付き証明書を使用する場合は、証明書に再署名する必要があります。

set network hostname コマンドを使用して IP アドレスのみを変更すると、クラスター内のすべてのデバイスがリセットされ、更新された ITL ファイルをダウンロードできます。証明書は更新されません。



(注) ホスト名を変更しても、ITL リカバリ証明書の再生成はトリガーされません。



注意

- これらの設定を変更する場合は、Cisco Unified Operating System Administration から 1 つずつ行うことを推奨します。IP アドレスとホスト名を同時に変更するには、CLI コマンドの **set network hostname** を使用します。
- Unified Communications Manager のクラスターセキュリティが混合モードで実行されている場合にホスト名または IP アドレスを変更すると、このノードへのセキュア接続は、CTL クライアントを実行して CTL ファイルを更新しない限り（またはトークンレス CTL 機能を使用している場合は **utils ctl update CTLFile** を実行しない限り）失敗します。

始める前に

導入環境で変更前タスクとシステムヘルスチェックを実行します。



(注) vcenter から vNIC を変更する必要がある場合は、CLI コマンド **set network hostname** を使用します。

手順

Step 1 Cisco Unified Operating System Administration から、[設定 (Settings)] > [IP] > [イーサネット (Ethernet)] の順に選択します。

Step 2 ホスト名、IP アドレス、また必要に応じてデフォルトのゲートウェイを変更します。

Step 3 [保存] をクリックします。

ノードサービスが新しい変更内容で自動的に再起動します。サービスを再起動することで、更新とサービス再起動のシーケンスを適切に実行して、変更を有効にすることができます。

ホスト名を変更すると、自己署名証明書が自動的に再生成されます。また、更新された ITL ファイルをダウンロードできるように、クラスタ内のすべてのデバイスがリセットされます。ホスト名を変更しても、ITL リカバリ証明書の再生成はトリガーされません。

次のタスク

導入の変更が正しく実行されていることを確認するすべての該当する変更後の作業を実行します。



(注) 新しいホスト名が正しい IP アドレスに解決されない場合は、次の手順に進まないでください。

クラスタが CA 署名付き証明書を使用する場合は、証明書に再署名する必要があります。

このプロセスを使用してクラスタを混合モードにした場合は、CTL クライアントを実行して CTL ファイルを更新します。トークンレス CTL 機能を使用した場合は、CLI コマンドの `utils ctl update CTLFile` を実行します。

Unified CM Administration GUI による IP アドレスまたはホスト名の変更

Cisco Unified CM Administration を使用して、データベースで定義されているパブリッシュおよびサブスクライバノードの IP アドレスまたはホスト名を変更することができます。これにより、ホスト名のエントリをシステムで定義されているホスト名や IP アドレスの値と一致させることができます。

IP アドレスまたはホスト名を変更すると、自己署名証明書が自動的に再生成されます。これにより、クラスタ内のすべてのデバイスがリセットされ、更新された ITL ファイルをダウンロードできるようになります。クラスタが CA 署名付き証明書を使用する場合は、証明書に再署名する必要があります。

**注意**

- ホスト名や IP アドレスを変更するには、システムのサービスを再起動する必要があります。そのため、通常の就業時間中に行うことは避けなくてはなりません。
- これらの設定を変更する場合は、Cisco Unified CM Administration から 1 つずつ行うことを推奨します。IP アドレスとホスト名を同時に変更するには、CLI コマンドの **set network hostname** を使用します。
- Unified Communications Manager のクラスタセキュリティが混合モードで実行されている場合にホスト名または IP アドレスを変更すると、このノードへのセキュア接続は、CTL クライアントを実行して CTL ファイルを更新しない限り（またはトークンレス CTL 機能を使用している場合は **utils ctl update CTLFile** を実行しない限り）失敗します。
- Cisco Unified OS Administration と Cisco Unified CM Administration のページに定義されているホスト名または IP アドレスが一致しない場合、アプリケーションは電話機のステータスを正しく取得できません。また、証明書が一致しなければ TLS ハンドシェイクが失敗します。Cisco Unified OS Administration と Cisco Unified CM Administration のページには、IP アドレスとホスト名に同じものを定義してください。

始める前に

導入環境で変更前タスクとシステムヘルスチェックを実行します。

手順

-
- Step 1** Cisco Unified CM Administration で、[システム (System)] > [サーバ (Server)] の順に選択します。
- [サーバの検索/一覧表示 (Find and List Servers)] ウィンドウが表示されます。
- Step 2** サーバのリストを取得するには、[検索 (Find)] をクリックします。
- Step 3** ホスト名を変更するサーバをリストからクリックします。
- Step 4** [ホスト名/IP アドレス (Host name/IP Address)]* フィールドに、新しいホスト名または IP アドレスを入力して [保存 (Save)] をクリックします。
- Step 5** 管理 CLI GUI から **utils system restart** の CLI コマンドを使用してノードをリブートします。
-

CLI による IP アドレスまたはホスト名の変更

導入のホスト名で定義されているパブリッシャおよびサブスクリバノードの IP アドレスまたはホスト名を変更するには、CLI を使用できます。特に明記されていない限り、この手順の各ステップは、Cisco Unified Communications Manager と IM and Presence Service クラスタのパブリッシャノードとサブスクリバノードの両方に適用されます。

ホスト名を変更すると、自己署名証明書が自動的に再生成されます。これにより、クラスタ内のすべてのデバイスがリセットされ、更新された ITL ファイルをダウンロードできるようになります。クラスタが CA 署名付き証明書を使用する場合は、証明書に再署名する必要があります。ホスト名を変更しても、ITL リカバリ証明書の再生成はトリガーされません。



注意 Cisco Unified Communications Manager のクラスタセキュリティが混合モードで実行されている場合にホスト名または IP アドレスを変更すると、このノードへのセキュア接続は、CTL クライアントを実行して CTL ファイルを更新しない限り（またはトークンレス CTL 機能を使用している場合は **utils ctl update CTLFile** を実行しない限り）失敗します。

始める前に

導入環境で変更前タスクとシステムヘルスチェックを実行します。

手順

-
- Step 1** 変更するノードの CLI にログインします。
- Step 2** **set network hostname** と入力します。
- Step 3** ホスト名、IP アドレス、またはデフォルトゲートウェイを変更するためのプロンプトに従います。
- a) 新しいホスト名を入力し、**Enter** キーを押します。
 - b) IP アドレスも変更する場合は、**yes** と入力します。その他の場合は、ステップ 4 に進みます。
 - c) 新しい IP アドレスを入力します。
 - d) サブネットマスクを入力します。
 - e) ゲートウェイのアドレスを入力します。
- Step 4** 入力内容がすべて正しいことを確認し、**yes** と入力して、プロセスを開始します。
-

次のタスク

導入の変更が正しく実行されていることを確認するすべての該当する変更後の作業を実行します。



(注) 新しいホスト名が正しい IP アドレスに解決されない場合は、次の手順に進まないでください。

クラスタが CA 署名付き証明書を使用する場合は、証明書に再署名する必要があります。

このプロセスを使用してクラスタを混合モードにした場合は、CTL クライアントを実行して CTL ファイルを更新します。トークンレス CTL 機能を使用した場合は、CLI コマンドの **utils ctl update CTLFile** を実行します。

Set Network Hostname の CLI 出力例



(注) vNIC を vcenter から変更する必要がある場合は、次の出力に示すように、ステップ 4/5 のコンポーネント通知スクリプト regenerate_all_certs.sh の後に vNIC を更新します。

```
admin:set network hostname ctrl-c: To quit the input. *** W A R N I N G *** Do
not close this window without first canceling the command. This command will
automatically restart system services. The command should not be issued during
normal operating hours. =====
Note: Please verify that the new hostname is a unique name across the cluster
and, if DNS services are utilized, any DNS configuration is completed before
proceeding. ===== Security
Warning : This operation will regenerate all CUCM Certificates including any third
party signed Certificates that have been uploaded. Enter the hostname::
newHostname Would you like to change the network ip address at this time [yes]::
Warning: Do not close this window until command finishes. ctrl-c: To quit the
input. *** W A R N I N G ***
===== Note: Please verify that
the new ip address is unique across the cluster.
===== Enter the ip address::
10.10.10.28 Enter the ip subnet mask:: 255.255.255.0 Enter the ip address of the
gateway:: 10.10.10.1 Hostname: newHostname IP Address: 10.10.10.28 IP Subnet
Mask: 255.255.255.0 Gateway: 10.10.10.1 Do you want to continue [yes/no]? yes
calling 1 of 5 component notification script: ahostname_callback.sh Info(0):
Processnode query returned = name ===== bldr-vcml8 updating server table
from:'oldHostname', to: 'newHostname' Rows: 1 updating database, please wait 90
seconds updating database, please wait 60 seconds updating database, please wait
30 seconds Going to trigger /usr/local/cm/bin/dbl updatefiles
--remote=newHostname,oldHostname calling 2 of 5 component notification script:
clm_notify_hostname.sh notification Verifying update across cluster nodes...
platformConfig.xml is up-to-date: bldr-vcml21 cluster update successfull calling
3 of 5 component notification script: drf_notify_hostname_change.py calling 4 of
5 component notification script: regenerate_all_certs.sh calling 5 of 5 component
notification script: update_idsenv.sh calling 1 of 2 component notification
script: ahostname_callback.sh Info(0): Processnode query returned = name ====
Going to trigger /usr/local/cm/bin/dbl updatefiles
--remote=10.10.10.28,10.67.142.24 calling 2 of 2 component notification script:
clm_notify_hostname.sh Verifying update across cluster nodes... Shutting down
interface eth0:
```

IP アドレスのみの変更

CLI を使用してノードの IP アドレスを変更できます。

ノードがホスト名または FQDN で定義されている場合、変更を加える前に DNS のみを更新する必要があります (DNS を使用している場合)。



(注) IM and Presence Service の場合:

- 最初に IM and Presence データベース パブリッシャ ノードを変更して確認します。
- IM and Presence Service サブスクリイバ ノードは、同時にまたは 1 つずつ変更できます。

始める前に

導入環境で変更前タスクとシステムヘルスチェックを実行します。

手順

Step 1 変更するノードの CLI にログインします。

Step 2 `set network ip eth0new-ip_address new_netmask new_gateway` を入力して、ノードの IP アドレスを変更します。

(注) `set network ip eth0` コマンドのみを使用して IP アドレスを変更した場合、証明書の再生成はトリガーされません。

ここで、`new_ip_address` は新しいサーバ IP アドレスを指定し、`new_netmask` は新しいサーバネットワークマスクを指定します。また、`new_gateway` はゲートウェイアドレスを指定します。

次の出力が表示されます。

```
admin:set network ip eth0 10.53.57.101 255.255.255.224 10.53.56.1 WARNING: Changing
this setting will invalidate software license on this server. The license will
have to be re-hosted. Continue (y/n)?
```

Step 3 CLI コマンドの出力を確認します。はいを入力して、**確定** を押して処理を開始します。

次のタスク

導入の変更が正しく実行されていることを確認するすべての該当する変更後の作業を実行します。

ネットワーク IP アドレスの設定の出力例



(注) vNIC を vcenter から変更する必要がある場合は、次の出力に示すように、ステップ 3/6 のコンポーネント通知スクリプト `aetc_hosts_verify.sh` の後に vNIC を更新します。

```
admin:set network ip eth0 10.77.30.34 255.255.255.0 10.77.30.1 *** W A R N I N G
*** This command will restart system services
===== Note: Please verify that
```

```

the new ip address is unique across the cluster and, if DNS services are utilized,
any DNS configuration is completed before proceeding.
===== Continue (y/n)?y calling
1 of 6 component notification script: acluster_healthcheck.sh calling 2 of 6
component notification script: adns_verify.sh No Primary DNS server defined No
Secondary DNS server defined calling 3 of 6 component notification script:
aetc_hosts_verify.sh calling 4 of 6 component notification script: afupdateip.sh
calling 5 of 6 component notification script: ahostname_callback.sh Info(0):
Processnode query returned using 10.77.30.33: name ==== calling 6 of 6 component
notification script: clm_notify_hostname.sh

```

CLI による IP アドレスまたはホスト名の変更

CLIを使用して、展開内のパブリッシャノードとサブスクライバノードのDNS IPアドレスを変更することができます。この手順は、Unified Communications Managerのパブリッシャノードとサブスクライバノード、およびIM and Presence Service クラスターの両方に適用されます。

始める前に

導入環境で変更前タスクとシステムヘルスチェックを実行します。

手順

Step 1 変更するノードのCLIにログインします。

Step 2 `set network dns primary/secondary <new IP address of the DNS>` と入力します。

(注) DNS サーバの IP アドレスを変更した場合は、CLI コマンド `utils system restart` を使用してサーバを再起動する必要があります。

以下の出力が表示されます。

```

admin:set network dns primary/secondary <new IP address of DNS> *** W A R N I N
G *** This will cause the system to temporarily lose network connectivity

```

Step 3 CLI コマンドの出力を確認します。はいを入力して、確定を押して処理を開始します。

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。